

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

渡辺 悟

視察日 令和5年11月6日(月)7日(火)

視察先 愛知県岡崎市

〃 瀬戸市

視察項目 岡崎市：大河ドラマを契機とした観光振興について

瀬戸市：小中一貫校について

○愛知県岡崎市

大河ドラマを契機とした観光振興について

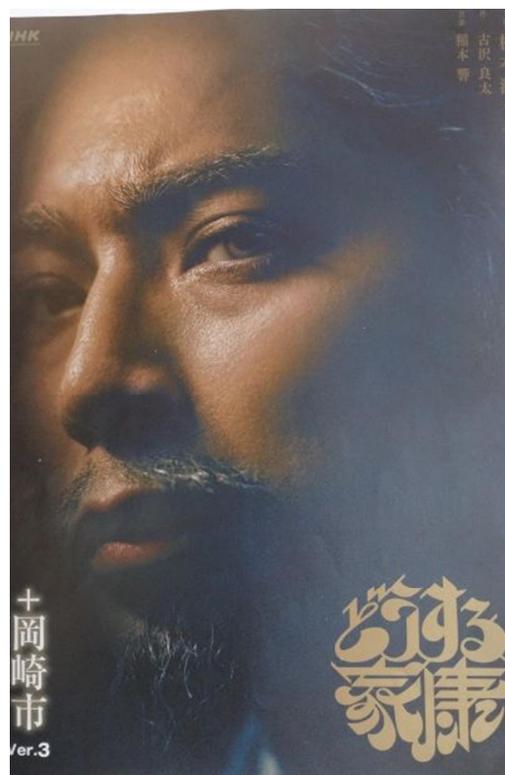
【所見】

岡崎市では、NHKの大河ドラマ「どうする家康」誘致が決定した時点から、観光誘客に対する実行委員会を組織し、専任担当部署を中心にPRのプロモーションであったり、市内観光関係機関と受け入れ態勢作りにも入念に備えた。

市では、家康の生誕の地であり幼少時代を過ごした岡崎城を中心としたゆかりの地を周遊していただいたり、泊まってゆっくりと観光していただけるよう、ありとあらゆる戦略を駆使し、中京圏・関西圏を中心とした誘客に特化したPRに努めてきた実績と気概を強く感じる事が出来た。

また、脚本家に古沢良太氏を迎え従来にはない切り口からの人間、家康が天下人となるまでを描きながら、豪華なキャストの重厚な演技を加えた展開が見る方にも岡崎市を再び訪問したくなる演出にも絶妙な配慮があり、早い準備により取り組んできた岡崎市の本気度を感じた。

本市においても、歴史と文化の香るまちとしてのブラッシュアップを重ね、何度も訪れたいまちとしてのおもてなしと、泊まって探求したいまちとしての夜景や銘仙柄の行灯やライトアップ、火灯りを使った幻想的な演出等のおもてなしを続けていくことによりリピーターや新規観光者を増やしていくことが重要だと感じた。今後、市政に反映させていきたいと考える。



○愛知県瀬戸市

小中一貫校について

【所見】

瀬戸市では、少子高齢化の影響を受け、児童生徒数が減少する中、将来の教育環境等に配慮した環境整備のあり方についての検討委員会を設置し、瀬戸市の教育行政の方向性を結論付けた。市内全地区における小中一貫校の設置である。

中心市街地の中学校
2校と小学校5校による
小中一貫校として「にじの丘学園」を旗艦校として新設の校舎を建て、児童生徒を路線バス通学にし、通学の安心・安全を確保しつつ、親族や地域の理解を得た。

また、オープンスペース等を多用し、開かれた学



校作りを推進しながら1年生～9年生の学校とし、中1ギャップに対応する。

さらに特徴的なことは、市内の中学校を核として最寄りの小学校を分離型の小中一貫校として、教育方針に従った指導を徹底した点は恒例と考える。

問題点は、にじの丘学園を義務教育学校としなかった点であり、今後の推移を見守りながら義務教育学校として、また小中一貫校としてのカリキュラム等の独自性を出していけるのかが、課題となるもよう。

本市でも、学校施設の老朽化と建て替えの課題、公共施設マネジメントの観点と今後の統廃合に対して、積極的な検討と真摯な議論により小中一貫校と義務教育学校等の新設により、児童・生徒の学業の向上と教育の質の向上を目指すことが重要であると考え。

推進に向けた重要な議論の展開をして参りたいと考える。